

愛光会だより



第102号

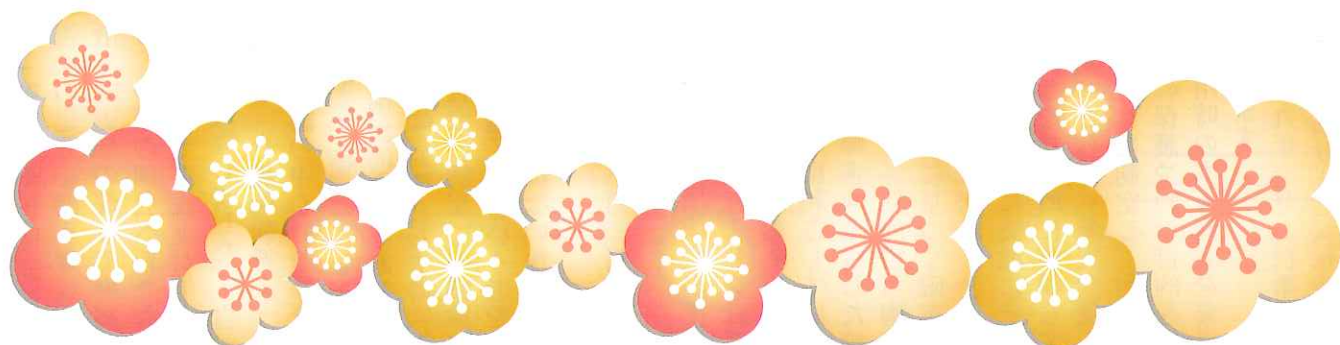
桜島学園 和光学園
総合サポートセンター ラン
平成30年1月1日発行

桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
発行・編集 社会福祉法人 愛光会
鹿屋市海道町729番地6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



新年、明けましておめでとうございます。

平成29年12月1日をもちまして、社会福祉法人 愛光会本部
とともに福祉総合相談支援センター あいとして移転いたしました。





新年、明けましておめでと
 う御座います。
 皆様方には、つつがなく新
 たな年を迎えられたこととお
 慶び申し上げます。

愛光会各施設・事業の利用
 者及び役員共大過なく無事
 に年を越し、新たな年を迎え
 ました。皆様方の深いご理解
 と絶大なご協力の賜物と厚く
 感謝申し上げます。

本年もよろしくお願い申し
 上げます。

昨年は、二月「アメリカ
 ファースト」を唱えるトラン
 プ大統領が就任し、過激派組
 織「I.S」によるシリア紛争
 から発生した難民、移民の受
 け入れ拒否、地球温暖化対策
 国際的枠組み「パリ協定」か
 らの一方的脱退、環太平洋経
 済連携協定「TPP」からの
 離脱等全世界に多大な影響を
 与えています。

さらに北朝鮮によるたび重
 なる「核爆弾開発の実験」、I
 CBMを含む「各種ミサイル

の開発実験」に対し、「すべて
 の選択肢は、テーブルの上
 ある」として軍事介入を否定
 していません。今年はこれ以
 上最悪のケースにならないこ
 とを切望します。

社会生活や社会福祉の発展
 充実には「世界平和」が絶対条
 件です。

昨年四月、「改正社会福祉法」
 が施行され、社会福祉法人「愛
 光会」では、議決機関として
 位置づけされた「評議員会」
 及び業務執行機関として「理
 事会」が設置され、活動を開
 始しました。現在まで「理事会」
 五回及び「評議員会」四回を
 開催したところです。

開催回数が多いのは、「愛光
 会組織」や「諸規定」の見直
 し議案が多数あったことです。

また昨年十二月一日付で「愛
 光会本部」と「福祉総合相談
 支援センターあい」を鹿屋市
 海道町に新築された事務所へ
 移転に関する「定款変更の手
 続き」が必要であったからで

す。

「理事会」は業務執行に関す
 る意思決定機関として位置づ
 けし、理事・理事長に対する
 牽制機能を働かすために基本
 的な業務執行案件は「理事会」
 の議決又は報告事項としまし
 た。

さらに「理事長専決事項」
 を明確にして、「理事会」に対
 して可能な限り事前と事後説
 明して承認を得ることとして
 います。

また、これからの「愛光会
 基本構想」については、ワー
 キンググループとして全ての
 種別の一般職員からなる「愛
 光会の未来を考える会（愛光
 会基本構想策定委員会）」を改
 称）から「理事会」へ提案し
 ます。各事業別に担当理事を
 配置し、担当管理者と一体と
 なり、事業を執行し「理事会」
 の承認又は報告することを義
 務付けしています。これから
 も法人経営のガバナンスを高
 めるように努めていきますの
 で、皆様方の忌憚のないご意
 見をお聞かせ願います。

去年二月、厚生労働省が「地
 域共生社会の実現に向けて（当
 面の改革工程）」を発表し、地
 域課題の解決力の強化、地域
 丸ごとのつながりの強化、地

域を基盤とする包括的支援の
 強化、専門人材の機能強化・
 最大活用等の具体的施策であ
 る「共生型サービス」の創設
 のために平成二十九年制度
 改正、同三十年年度報酬の改定
 作業が進行しています。

そのサービスは、「シヨ
 トステイ」、「デイサービス」
 「ホームヘルパー」等が検討さ
 れていると聞き及んでいます。
 これらの動静とともに高齢
 者対象の「地域包括的ケアシ
 ステム」の動向にも注視する
 必要があると考えています。

さて、「愛光会だより一〇〇
 号」の発刊によせての表題も
 第三回目を数え、当初予定し
 ていた枚数を大幅に超えまし
 た。改めて読み直してみます
 と発行された時期が鮮明によ
 り、終わりのない検証
 とともに深い反省と少しの達
 成感を感じて、つい枚数を増
 やしてしまいました。後一、
 二回で終了する予定ですので、
 お付き合いをお願い致します。

平成十八年一月一日発行第
 七十八号の記事では、「財政的
 に破綻した「支援費制度」を
 廃止して「障害者自立支援法」
 を成立の経緯と内容を紹介し
 ています。
 その最初の法案は、参議院

での「郵政民営化関連法案」
 の否決の是非を問う衆議院の
 解散・総選挙の煽りで廃案と
 なり、つぎの国会へ新たな法
 案を提案して平成十七年十月
 三十一日成立しました。「自己
 負担」と「介護保険導入」の
 是非が議論の中心であったこ
 とを鮮明に記憶しています。

現在、国民的課題である「少
 子・高齢化」対策としての「地
 域共生社会の実現」の議論に
 「介護保険導入」という影を落
 しているのではないかと感じ
 ています。

平成十八年八月一日発刊第
 七十九号では、「障害者自立支援法」の重要
 な施策である新サービス体系
 とその利用方法、報酬単価に
 ついて具体的に報告していま
 す。身体的障害を重視した評
 価基準による「新障害者程度
 区分」とそれに基づく限定さ
 れた「サービス利用」と「報
 酬単価」がいかに実態にそぐ
 わないかを具体的に解説して
 います。さらに「愛光会個人
 情報規程」を制定し、利用者
 の情報の保護や利用目的を定
 め、利用時の本人同意を義務
 付けています。

平成十九年一月一日第八十
 号では、「新サービス体系」へ

の移行計画を織り込んだ「新愛光会基本構想」の中間報告を紹介しています。当時は愛光会サービステル系の再編成や新規事業の開始の準備で猫の手も借りたいほどに追い込まれていたことを今では懐かしく思い出されます。

平成十九年八月一日第八十一号では、その移行計画の実績として共同生活介護事業所「ケアホームれん（定員十名）」が七月一日より開設し、総合サポートセンターランの「地域活動センター」と「生活介護事業」が活動を開始しました。さらに桜島学園では、小規模グループケアを推進するため定員八名の施設二棟が整備され、新しい生活がスタートとしたことを報告しています。

平成二十年八月一日第八十三号では、「新愛光会基本構想」を発表しています。ここ二、三年吹き荒れた制度改革のために当初想定した見直し検討期間が大幅に伸びて、平成二十年五月二十四日理事会、評議員会で承認されました。そのような制度改革はしばらくと考えられ、半永久的につづくと考えられ、その「基本構想」の見直し作業は終わりが無い

と妙に納得したことを記憶しています。

平成二十一年一月一日第八十四号では、障害者自立支援法に基づく新制度への移行が同年十月一日にすべて完了したことを報告しています。

平成二十二年一月一日第八十六号では、従来の障害者福祉政策を大改革する出来事がありました。そのことを報告する記事から抜粋してみます。「昨年（平成二十一年）の八月に行われた衆議院の総選挙において、戦後からほとんど政権を担当してきた自由民主党が大敗し、民主党が大勝しました。その結果、九月政権交代が実現して民主党を主軸とする連立内閣である「鳩山内閣」が発足しました。民主党のマニフェストによれば、「障害者自立支援法を廃止して、障がい者福祉制度を抜本的にみなおす」とあり、就任早々の長妻厚生労働大臣は、四年後を目途に「障害者自立支援法」を廃止して、新しく「障がい者総合福祉法」を制定すると明言しています。」とあります。そして「内閣に新たに設置される「障がい者制度改革推進本部」の組織の中に障がい者当事者の参

画がより強化されるよう障がい当事者団体、有識者を含む委員会を設け、制度改革の実施状況に関する事項を調査審議し、本部長に意見を述べる等を行うこととし、法律案の立案事務を内閣府において一元的に処理するものとする。」と前例を見ない画期的策定手順を提案しました。その理想的福祉政策が具体的に法案化の議論が進むにつれて期待感が徐々に薄れてきたことを記憶しています。その理由は今でもよく理解ができていません。

平成二十二年八月一日発行第八十七号では、「社会福祉法人愛光会創立五十周年記念事業について」が記載され、事業の内容が説明されています。昭和三十八年十二月二十日に法人認可を受け、初代理事長「指宿利夫」が就任し、以来平成二十五年十二月二十日をもって五十周年目を迎えました。

平成二十三年一月一日発行第八十八号では、平成二十一年度創設された「障害者自立支援法」への移行促進や景気対策としての障害者自立支援基盤整備事業及び社会福祉施設等耐震化等整備事業等の施策による、フレンドリーホームいぐまの高牧農場の改修、桜町学園の改修、耐震化改築、補強工事、スプリンクラー設備工事及び和光学園のスプリンクラー設備工事が平成二十三年三月までに完了したは完了できる見込みを報告しています。

愛光会の歴史と現状を検証し、改めて皆様方のご厚情に感謝し、さらなる少子高齢化に伴う「福祉制度の改革」を乗り切るために、これからの愛光会のあり方を考える良い機会になったことでした。

長年の念願であった各施設の「居住空間の改善」と「防火・耐震化」が短時間に、一挙に図られたことは夢のような思いがしました。あらためて、関係各位に感謝申し上げます。

平成二十三年八月一日発行第八十九号では、表紙に桜町学園の玄関脇に立つ「二宮金次郎の像」が掲げています。彼は前桜町小学校時代から児童、地域住民、桜町学園利用者職員を見守ってきました。これからもみなさんを見守ってください。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分東北地方太平洋沖に震源を持つ巨大地震（マグニチュード9.0）とそれに伴う大津波が福島県、宮城県、岩手県を中心とした東日本を襲った「東日本大震災」に関連して、愛光会の対応について報告しています。あらためて「リスクマネジメント」の重要性を認識するとともに「災害」や「事故」は、時を選ばず必ず発生することを想定し、「予防」と「減災」に努めます。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分東北地方太平洋

予定した紙面数が尽きましたので第九十一号以下の紹介は次号とします。

予定した紙面数が尽きましたので第九十一号以下の紹介は次号とします。

新年を迎えて

桜島学園 園長 野口 輝俊

新年、明けましておめでとう
ございます。

皆様方におかれましては、穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。学園では子ども・職員が元気に年を越すことができました。これも皆様方の温かいご理解とご支援のおかげと心から感謝しております。

さて、昨年は学園にとって大きな出来事がありました。まずは前園長の徳永辰則先生が六月末に退職されたことです。長年に渡りご尽力され、多大な功績を残されました。後任には私が就任することになり、不肖ながら精一杯努力する所存です。よろしくお願いたします。次に、鹿児島市坂元町に地域小規模児童養護施設すみれホーム(定員六名)を開設したことです。自立支援を目的にしたホームであり、順調に運営しています。また、第三者評価を受審(二回目)しました。社会から求められる社会的養護施設として、質の向上をめざす契機にしたいとの思いから、係りを中心に準備をしてきました。間もなく結果が公表されると思っています。ご覧いた

き、ご指導を頂けたらと思いま
す。

一方で社会的養護の世界では、八月に「新しい社会的養育ビジョン」が国に提出され、その内容に衝撃が走りました。就学前の子どもは施設への新規措置を停止する、特別養子縁組・里親委託の数値の設定、施設入所期間の限定化等々に、関係者からは憤りや不安の声があがっています。今後はどのような取りまとめをしていくのか、波乱の年になるのは間違いないとさうです。

桜島学園では子どもの最善の利益を第一に考え、今後の方針として施設の小規模化、地域分散化、専門化、自立支援を掲げています。その根底になるのが、子どもを中心にした温かい生活の営みです。その営みを大切にしながら、子ども・職員が、元気で楽しく健康な年にならうと思っています。

皆様にとって今年が良い年でありませうに、衷心からお祈りいたします。

本年もよろしくお願い申し上げます。

「秋の楽しい一日」

和光学園 施設長 松脇 政記

新年おめでとうございます。利用者・ご家族の皆さん、よき新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。本年も何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

十一月五日家族会主催秋の一日親子遠足に、多くのご家族が参加され実施されました。十月下旬日曜日ごとに台風二十一号・二十二号の影響を受け風雨が強く心配しましたが、遠足当日は素晴らしい秋晴となり心から感謝、利用者さんのかねての行いが良かったから天からの褒美です。行き先は霧島ヶ丘公園バスが駐車場に到着すると利用者さんは、家族を見つめるために車外に目を向けて落ち着かない様子でした。家族と久しぶりに面談少し興奮気味、時間がたつにつれ楽しい雰囲気となりはち切れんばかりの笑顔が見られました。

公園内はコスモスがピンク色に染まり、周りの木々も紅葉がちらほらと始まり気持ちよい秋風が吹いていました。皆で過ごす休憩場所を確保した後、早速ばら園を利用者さん達と散策時期が早かったのか蕾が多く咲いている花も小さいでしたが、バラの香りはしっかりしました。公園内ではかのや・ばら祭りウオー

キング大会が開催されて賑やかでした。利用者さんが、待ちに待ったお弁当の時間、各家族が集まり和気あいあいとした中で食事が始まりました。昔法人運動会、テント内で親子笑顔一杯でお弁当を食べる風景を思い出しました。昼食が終わると、次は全体でのレクリエーション大会です。スタツフが新聞紙と傘を準備、各自五枚の新聞紙を丸め玉を作り傘を逆さまに使い

ゴールとして児童部と成人部で玉入れ合戦、皆さん必死になって歓声を上げ競技されていました。最後に児者毎に集合写真を撮り楽しい時間は過ぎ、ご家族と別れるときはさびしうでした。

この秋の親子一日遠足は、平成元年の親の会総会で親子でふれあう機会を作ってほしいと強い意見がありました。当初は学園から歩いて行ける場所が目的でしたが、最近近は園のバスや貸し切りバスを使って遠出をするようになっていきました。今年二十九回目となり長く続いている行事です。また三月に実施される春の親子一日遠足を楽しみに新しい年を皆さんと元気で迎えたいと思います。ご参加いただいた御家族の皆様有り難うございました。

桜町学園内における職員研修について

桜町学園 施設長 前原 昭子

明けましておめでとうございま
す。

皆様方には、新しい年をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は何かとお世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、桜町学園では毎月、職員会議の後に職員の持ち回りで職員研修を実施しています。研修内容としては、否定的な言葉や行動をしないという社会生活技能訓練(SST)を導入したロールプレイの実施、職員同士のモチベーションを上げる為の実践、業者の実演講習による「オムツのあて方研修」等々多岐にわたる研修を行っています。

先月は「利用者様が誤嚥をした際の緊急時の対応について」という内容で実施しました。まず最初に、看護師から誤嚥時の対応について、①利用者様への対応、②職員間の連携、③救急車等の救急要請等についてレクチャーがあり、その後その場面のロールプレイを行いました。誤嚥した利用者様

へのハイムリック法や口腔からの異物除去方法、電話での救急要請、救急隊員への情報提供など、実践さながらのロールプレイは経験の浅い職員はもとより、ベテラン職員にとつても、いざという時に役に立つ内容であり、これからも定期的に実施していくことの重要性を再確認する事が出来ました。又、「介護職員の痰吸引研修」も毎年度計画的に受講し、現在、六名の職員が修了しており、唾液や痰の吸引を行う事で誤嚥防止に繋がっていると実感しています。

厚生労働省は、ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ等において、障害福祉サービスと介護保険サービスを相互乗り入れさせる方針（共生型サービス）を打ち出しました。桜町学園には、重度・高齢の利用者様が多く在籍されていますので、専門的技術等の研修を継続して実施していく事が重要であり、尚且つ、愛光会が共生型サービスに関わっていく時に、桜町学園のノウハウが活用できるように準備を整えていきたいと考えます。

今年も利用者様の幸せを願い、地域に貢献出来る施設を目指して職員一丸となって取り組む所存でございますので、皆様方のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

共に生きる社会

フレンドリーホームいいぐま 施設長 指宿 章子

平成三十年、明けましておめでとうございます。ご家族様、保護者様におかれましては、当事業所の様々な年間行事等にご協力、ご参加頂きまして誠にありがとうございます。昨年同様、本年度も宜しくお願

子どもたちも未就学児が多く、加えて親の就業率も高い事から、時間的にゆとりがなく、養育経済的にも苦しい家庭要因に繋がり、市内でも複数の（子供食堂）が運営存在しています。今後、障害がある無しに関わらず、時代を担っていく子どもたちが安心して暮らせる生活環境整備と、福祉サービスを必要としている地域の単独世帯、高齢者世帯に対し、継続的な福祉サービス提供が地域貢献事業として検討されています。国は障害のある人の高齢化、重度化、親無き後を見据え障害児者の地域生活支援を推進する視点から、居住支援の在り方として、相談・体験の機会、場・緊急時の受け入れ、専門人材の確保・育成、地域の体制作りの機能強化を示しています。住み慣れた地域で子どもから高齢者まで共に支え合い、共に暮らせる地域生活支援拠点作りを目指し、社会福祉法人愛光会（福祉総合相談支援センターあい）が鹿屋市海道町に新築移転の運びとなりました。

今後確実に推移していきま

す少子高齢化に伴い、身近な地域におきましても諸事情による高齢者の一人暮らし、空家売家が急増してきています。また、少子高齢化による廃校の影響から、静かな生活環境が一層静かになり、少子高齢化への流れを認識せざるを得ない状況です。加えて、若い世代、中でも三十代の離婚増と未婚化、熟年夫婦の離婚等から片親、単独世帯の増加等様々な形態の核家族が形成されています。平成二十七年年度の国勢調査では、母子世帯数は七十五万五千世帯、父子世帯数は八万四千世帯であり、父子世帯の変動は無いが、母子世帯数は過去二十一年間で二十万世帯増と推移して来ています。子育て世帯の離婚増に伴い、養育中の

「福祉サービス事業所としての役割」

総合サポートセンターラン 施設長 有嶋 君夫

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願

しドライブサロン事業を提供することで、今後、身近な存在になることを願っています。今までは、高齢者は介護保険・障害者は総合支援法・児童は児童福祉法というように、分野毎で福祉サービスを行ってききました。しかし国は超高齢化社会を迎えるにあたり、縦割りの対応でなく、分野の垣根を外し丸ごととして捉え、誰もが集える場所を確保しながら地域の困りごとは地域で共助し解決する方向に推進するようです。

去る六月、鹿屋市社会福祉協議会に主任と二人訪問。法人が掲げた「各事業所ごとに地域貢献を始める。」に沿って構想したものを相談したのです。担当者から鹿屋市で必要とされる公益的取組をいくつか教えていただき、その中に鹿屋市南部地区にドライブサロンのニーズがあることを聞き、ランのマンパワーを活かすのはドライブサロンだと思ったのでした。その後、五ヶ月間検討・会議・打ち合わせ・法人の役員会を経て、平成二十九年十一月十五日、秋晴れのもと開始式を迎えることができました。日頃ランは、デイサービスやホームヘルプサービスを提供していますが、対象地域が広域であり、地元飯隈町の利用者がいないことで地域での認知度は低いのではと感じていました。

このドライブサロン事業が長く続くことで地域の困りごとを解決する一役を担うことになれば幸いです。

しかし、飯隈町・南町の高齢者等の交通弱者の方々に対



事業所移転のこ挨拶と今後の展望
福祉総合相談支援センターあい 管理者 宮園 正志

新年あけましておめでとう
 ございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

さて、平成二十九年一二月一日をもちまして相談支援事業所あいは愛光会本部とともに事業所を移転しました。同じ北海道に移転しますが、花岡学園や体育大学に更に近く、町内のほぼ中心部となっております。また、事業所の名称を「福祉総合相談支援センターあい」に変更するとともに、新規事業として「指定一般相談支援事業」と「指定居宅介護支援事業」を開設しました。

今後の事業内容としては、これまでの子どもから六十五歳（基本）までの障害福祉サービスなどを必要としている方のサポートに加えまして、六十五歳以上の方においてのサポートを介護保険事業にて行うこととなります。

新規事業を行う背景と動機として、昨今、国が少子高齢化問題や世代間にわたり複雑になっている課題などを解決するために「地域共生社

会の実現」に向けての当面の改革工程を打ちだしました。その方針のひとつをみてみますと「子ども、障害者、高齢者などに別れている支援体制を包括的に行っていく」となっています。このような国の施策のもと、当事業所としても六十五歳以上の高齢者や地域で生活する障害者などの支援を包括的に行っていく必要があると感じたためです。

今後は現行の相談支援専門員に加えまして、新たに高齢者の福祉や医療などのサービス、それを必要とする人のニーズをつなぐケアマネージャーを新たに採用し包括的に展開していきます。

これらの事業を展開していくための決意といたしまして以下、述べます。①当事業所と関係事業所及び関係事業所同士のネットワークづくりやコーディネート機能の強化。②利用者様のニーズとサービスの調和。③サービスの開発及び担い手の養成と発掘。④制度改正を予測した支援体制の整備。⑤それぞれのスタッ

フの意見を積極的に受け入れながら、当事業所の発展を促進させる。

次に、私自身が業務を全うしていくための決意といたしましては①基礎的な知識を土台に、必要と思われる情報や知識を選択的に習得する。それを体系化できる能力を身につける。②考えすぎたり完璧な先見を求めすぎたりして、行動や支援の先延ばしが当たり前にならないようにする。③自身の置かれていない立場で「求められていることや貢献できることは何か」を考える習慣を身につける。

誠に簡単ではありますが、福祉総合相談支援センターあいの事業所移転と新規事業開設のご挨拶とさせていただきます。これからもご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



今年の抱負

おひさまキッズ 施設長 鶴田 正美

物事にはいろんな見方・捉え方があり、そもそも人は一人一人違う人格・個性があることに異論を唱える人は少ないと思う。が、それを知っていることと、受け入れることは別である。そして新しい考えを受け入れるには勇氣もいる。

先日受けた研修は、講義を受けた後、演習を行う形式で、グループワークが主だった。講義の内容はわかりやすかったが、課題にグループで取り組む際、同じ説明を聞いたはずなのに解釈が違う・発想が違う・スピードが違う等々、違う事ばかりで戸惑った。振り返って考えると、私は「これ以外の答えはないはずだ。」と思い込んでいたせいだろうと思う。

思い込みは怖い。ついこの前も、自分の車と思い込んで他人様の車を開けようとした事があった。おひさまキッズは、とても個性的な特性を持った子どもたちがやって来る。いわゆるダイバーシティな集団である。言葉でのコミュニケーションが苦手だとか、音が聞こえすぎるなど、

特異な感性のため端から見ると理解されにくい行動になることも多い。支援の中で、自分の見え方が全てと思ひ込んで判断し、関わっている場面が多いことに気付く。百人百様。一人として同じ人はいない。知っているが受け止めていない。車を開けようとしてもそもそも違う車だと開けられないように、違う感性や考えを受け入れる柔軟性を持つことで開ける事もある。

英語で教育を意味する EDUCATION はもともと「子どもの持つ持っている資質を引き出す」という語源からきているそうである。現状の肯定からスタートする感じが良いと思う。子どもの持つ持っている資質・可能性を自分から発揮できるような環境を作ることが、子どもの幸せに繋がる。そのために今年私は自身が成長したい！と言える一年にしていきたい。



平成二十九年度社会福祉法人愛光会 保護者並びに役員合同研修会

当番施設 桜町学園 副施設長 新地 拓哉

師走に入ったばかりの十二月二日、一年を締めくくる恒例の行事である平成二十九年度第二回社会福祉法人愛光会保護者並びに役員合同研修会が開催されました。総勢百九名の参加者の中、開会式の指宿理事長の「新しい時代へ向けて愛光会も準備を進めていかなければならない。」という趣旨の挨拶から始まり、研修Ⅰでは交流体験研修報告を四名の職員が行いました。交流体験研修は法人内の他事業所で六日間の研修を行うことで、普段の自分の業務を見直す良い機会となっておりますが、意思決定支援、高齢障害者への支援、人権擁護、入所と通所の違い等、自ら研修のテーマを決め研修に取

り組んだ結果、良い学びを得ることが出来たようで、発表を聞いた私達も充実した交流体験研修であったことを感じることが出来ました。研修Ⅱでは、愛光会のみらいを考へる会の報告と致しまして、委員長、部長三名が発表を行いました。愛光会のみらいを考へる会は、基本構想策定準備委員会から名称を変更し、新しい委員を招集した上で今年度七月から活動を開始しております。発表では少子高齢社会・社会保障費の推移・貧困問題・虐待の問題等について日本の現状がグラフ等でわかりやすく説明され、また国が進める地域共生社会へ対応すべく、共生型サービス検討部会、地域貢献部会、職員スキルアップ検討部会

の三つの部会が各々の立場で検討している内容の報告が各部会長よりありました。共生社会とはどのような社会で、私達が今後どのように取り組んでいくべきかを理解することが出来、大変有意義な研修となりました。研修会終了後に隣の会場にて懇親会を行いました。保護者・役員員合わせて百名弱の出席があり、お互いの親睦を深める良い機会となりました。

今回の研修会で学んだことを事業所へ持ち帰り、研修会へ参加出来なかった職員とも共有し、今後の利用者支援へ生かしていきたいです。発表の内容からも課題はたくさんありますが、一歩ずつでも前進していけるように法人全体でそれに取り組んでいきますので、今後共々指導、ご協力をよろしくお願いたします。



各施設新職員のご紹介
ニューフェイス



フレンドリーホームいぐま
生活支援員
新留ゆかり

フレンドリーホームいぐままで、支援員としてお世話になっております。毎日が勉強でまだまだ迷惑を掛けながらですが、先輩職員の皆様のおかげで助けております。利用者様とのコミュニケーションの難しさを実感しながら、よりよい支援が出来、少しでもお役に立てる様しっかりと支援をしていきたいと思っております。



フレンドリーホームいぐま
生活支援員
久留米 瞳

フレンドリーホームいぐまに支援員として勤務しております。まだまだ慣れない事ばかりですが、日々勉強をさせていただいております。利用者様の笑顔が少しでも増える様毎日笑顔で頑張りたいです。



フレンドリーホームいぐま
調理員
池畑ひかり

十月より調理員として働かせていただいております。利用者様様に美味しかったと言っていた様に毎日頑張ります。



総合サポートセンターラ
看護師兼生活支援員
楠園ゆう子

九月より生活介護に入職致しました。一日でも早く職場の環境と仕事に慣れるよう努力して参ります。ご指導の程よろしくお願い致します。



桜島学園
児童指導員
荒木 隆志

児童指導員として、勤務させていただきました。子ども達の最善の利益を考慮した支援を目指します。宜しくお願い致します。



桜島学園
児童指導員
安達 智子

施設での勤務は初めてですが、より家庭的な雰囲気作りを心掛けて子ども達と関わり支援をしたいと思っております。宜しくお願い致します。



和光学園
指導員
長濱 芳郎

十一月から和光学園児童部の指導員として勤務させていただきます。前職は高齢者福祉施設でしたのでその経験を活かして、新たな知識と技術を身につけてより良いサービスが出来るように邁進してまいります。



和光学園
保育士
内倉 夏美

十月一日より和光学園児童部に勤務する事になりました。子ども達の個性を把握した支援が出来よう努めて参りたいと思っております。宜しくお願い致します。



桜町学園
生活支援員 (非常勤)
木下 将大

十月より生活支援員(非常勤)として働く事になりました。介護の仕事は未経験ですが、利用者様が安心して快適に過ごせるように積極的にコミュニケーションを取りたいと思っております。目標は介護福祉士の資格を取ることです。宜しくお願い致します。

寄贈一覧 桜島学園分

(H 29.8.1 ~ H 29.12.8)

- 打越 政継様
- ユーコーラッキー様
- 全国シャンメリー協同組合様
- 鹿児島県漁青連様
- JA県女性部様
- 鹿児島県農協青壮年組織協議会様
- フードバンクかごしま様
- 和田 隆志様
- 鹿児島ライオンズクラブ様
- 篠原 研二様
- 日本中国料理協会鹿児島県支部様
- 米森建設様

たくさんの寄贈をいただきました。心から感謝いたします。



寄贈一覧 和光学園分

(H 29.7.11 ~ H 29.12.12)

- JA・信連・農林中金様より チューリップ球根
- (株) 新生社印刷様より 野球用具セット
- 鹿屋市社会福祉協議会様より 50,000円
- 鹿児島県共同募金会様より 自転車

編集後記

新年おめでとうございませう。皆様におかれましては、ご健勝にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

愛光会だより第一〇二号が出来上がりましたのでお届けいたします。

当法人では桜町学園に続き、総合サポートセンターラにおいて、飯隈町と南町を対象としたドライブサロンを昨年の十一月より開始し、利用者様よりご好評の声をいただいております。

利用者様やご家族様だけでなく、地域住民の方々からも必要とされ続ける法人であるべく、サービス提供や地域貢献を行っていただけるよう、これからも職員一丸となって努力して参りますので、今年も宜しくお願い申し上げます。

(編集委員一同)



各施設行事報告

桜島学園
初めての秋桜杯
桜島学園 小学6年 H・N

十一月二十五日、秋桜杯児童福祉施設スポーツ大会が霧島市上野原縄文の森で行われました。僕は駅伝の部と、小学生綱引きの部に参加することになっていました。大会当日は朝からとても寒い日でした。初めての参加ということもあり、僕はすっと緊張していました。十時にスタートの号砲が鳴らされ、僕は八区を一生懸命走りました。しかし七位という結果でもとても悔しかったです。

小学生綱引きの部では、予選を二勝して、決勝トーナメントに進出しました。準決勝からは相手も強く、大きな声を出して頑張りました。決勝戦では疲れもあり、接戦になりましたが、優勝することができ、喜びを分かち合いました。そして学園に優勝旗を持ち帰りました。十二月三日、優勝メンバーは珍満で祝賀会の食事がありました。うれしかったです。とてもいい思い出になりました。



和光学園
BOONBOON Festa
担当指導員

九月二日、鹿児島市民文化ホールにて開催されました。今回で第五十一回目の開催となる文化祭は、今回より「Boon Boon Festa」と名称を改めました。Boonには「愉快な」という意味があります。ステージに上がる人も、そうでない人も同じ愉快な空間共有できればと願って付けられたそうです。今年度は十二施設事業所の皆様に参加され盛り上がりました。和光学園では児童・成人部女子による「ソフィスケイティッドフラ」と男子はS・M・A・Pの「JOY」を一緒に本番に向けて練習を頑張ってきました。本番が近づくにつれ緊張もしましたが練習の成果を本番でも発揮する事ができ利用者様、職員一丸となって喜びを分かち合う事が出来ました。発表が終わった後の皆さんの笑顔がとても印象的で、普段は見る事の出来ない表情をされ楽しんでくれていました。



桜町学園
合同日中活動
担当支援員

桜町学園では、毎月男性棟と女性棟と合同で日中活動を行っています。活動内容としては、リズム体操、ラジオ体操、カラオケ、玉入れ、季節行事等を実施しています。カラオケでは、好きな歌を歌う方や、全体で季節に合った歌を歌う等実施し、皆さん元氣よく歌われていました。リズム、ラジオ体操、玉入れでは、たくさん体を動かして頂き、楽しんで頂いています。今後も利用者の方々の学園での生活がより良くなるよう、日中活動内容や行事を工夫し、楽しい生活を送って頂けるようにしていきたいです。



フレンドリーホームいぐま
ファミリーレクリエーション
担当支援員

十一月五日(日曜日)、高山温泉ドームにて保護者会主催のファミリーレクリエーションが開催されました。始めに、生活介護の利用者さんが、日中活動発表という事でハンドベルの演奏を行いました。いつもとは違う雰囲気の中の演奏でしたので、少し緊張しましたが上手に演奏出来ました。次はクリスマス会に向けて練習を頑張りたいです!!

皆で美味しい食事を食べお腹いっぱいになった後は、グラウンドゴルフを保護者の方達と一緒にプレイしました。ホールめがけて一生懸命にボールを打つ姿が見られ、笑顔と笑い声がグラウンド内に響き、天気にも恵まれ秋の楽しい一日を過ごす事が出来ました。



総合サポーターセンターラン
なかよしスポーツ大会
担当支援員

十月十三日、肝付町総合運動場にて第二十六回なかよしスポーツ大会が開催されました。今年度は、地域活動支援センターとグループホームの利用者が参加されました。当日は天候にも恵まれ、また九州大会や全国大会へ繋がる大会ということで、利用者様の気合いも十分に感じられました。各競技の種目では「五十メートル走で一位だったよ」、「メダルをかけてもらったよ」と嬉しそうに見せてくださったりと、玉入れや玉転しなどの団体競技では、お互いに協力して頑張っている姿が見られ、応援席で出番を待つ間も他競技に出場している競技者を応援する姿もあって、スポーツ大会ならではの盛り上がりでした。

終わった時には「楽しかったよ」と満足そうな笑顔をくれていて、大きなケガ等もなく楽しく参加が出来たことがとても良かったと思います。



おひさまキッズ
今年も開催！ミニ運動会
担当保育士

十月末、今年もミニ運動会を開催しました。運動会当日に向けて子どもたちや保護者の皆様・職員、キッズにかかわる皆で作った万国旗を飾り、子どもたちを迎えました。保護者の皆様との登園、行事ということもあり、子どもたちのやる気、また少しの戸惑いも感じられる朝でした。運動会まで、親子療育・通常療育の中に競技内容の要素を少しずつ取り入れ、競技道具も皆で作って迎えた本番。さまざまな環境の変化で、練習の成果を出せない場面もありましたが、お菓子とり競走は子どもたちの個性溢れる競技となりました。保護者の皆様におんぶされ、走ってゴールしていく時の子どもたちはとってもいい笑顔でした。

また来年に向け、一つずつ、一つずつ。日々の積み重ねを大事にしていきたいと思えます。



行事生活一コマ



ランニング桜島応援「チームスマイル」



ハロウィンパーティー (日本中国料理協会鹿児島県支部様)



鹿児島ユナイテッドFC 応援

桜島学園



鹿屋養護学校運動会



第51回施設文化祭



肝属地区なかよしスポーツ大会

和光学園



男女合同日中活動(玉入れ大会)



男女合同レクリエーション会



肝属地区なかよしスポーツ大会

桜町学園



みかん狩り外出

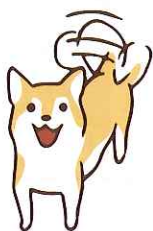


カラオケ体操



書道

フレンドリーホーム
55Vま

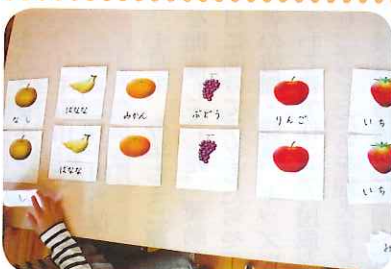


鹿児島女子短期大学交流会



佐多岬ドライブ

総合サポートセンター
ラン



文字あわせ教材



クッキー作り



クリスマスツリー制作

おひさまキッズ